

令和3年度 神奈川陸上競技協会専門委員会活動計画

<総務委員会>

- ① 各専門委員会と連携し、各競技会が円滑に運営できるよう準備業務を行う。 (委員会全体)
- ② 県陸協諸会議が円滑に運営できるよう準備業務及び議事録の整理保存を行う。 (総務部)
- ③ 登録業務の Web 登録と登録費の管理、処理を郡市陸協登録業務担当者と連絡を密にし、不備のないようにスムーズに的確に行う。 (総務部)
- ④ 競技会への医師の配置計画を立案し、確実な配置を目指し不測の事態に備える。 (医事部)
- ⑤ 女性指導者、女性審判員、選手対象の活動内容の検討及び実施方法を考える。 (女性部)
- ⑥ 広報の発行を継続し、内容を検討しての広報の発行 (年2回)。 (広報部)
- ⑦ 年間反省会・県代表優秀選手表彰式の準備業務を行う。 (総務部)
- ⑧ その他、他の専門委員会に属さない事項について処理業務を遂行する。 (委員会全体)

<競技運営委員会>

◇競技運営委員会

- ◎競技者が競技力を最大限に発揮できるようベストの環境づくりと競技運営を目指す。
競技者・競技役員・観衆が一体化した競技運営と明確な判定とミスのない連携体制とる。
- ◎競技規則に基づき各競技会の運営を円滑に推進する。
競技者が安心して競技に参加できる環境づくり。

◇審判部

- (1) 審判技術の更なる向上による信頼性の確保
東京オリンピックをひとつの契機とし、競技規則の更なる習得と実技の向上により、信頼される競技運営を目指す。審判員のスムーズな年代交代ができるよう各部署でのルールの理解と審判技術の向上を図る。
日本陸連主催大会は、陸連競技運営委員会との連携により他県 JTO を交えて本県審判員のレベル向上を目指す。
- (2) 若手競技役員（審判員）の確保及び育成
若手審判員（関東学連卒審判有資格者、新 B 級取得者等）を粘り強く県陸協主催、主管大会に委嘱するとともに、若手審判員などが定着するような運営環境を醸成する。
- (3) 女性競技役員（審判員）の積極的な確保及び育成
女性競技者により良い競技環境構築のため、女性競技役員の確保は必須。女性部とも連携し、競技役員委嘱の拡充に努める。また、女性審判員の育成を図る観点から、出席しやすい弾力的な運営環境を醸成する。
- (4) 審判委嘱 20 日前の徹底。
- (5) 委嘱審判員の見直しと委嘱審判員出席率向上
(出席して頂ける役員にお願い)

◇競技部／記録部／情報処理部

- 2020 年度の反省を基に以下の項目を行う
- (1) 大会要項の見直し、電子化申込の定着を図る。
 - ・競技方法、競技内容、競技実施日の再考を行う。
 - ・電子化等申込の申込内容精度向上を推進する。
 - ・要項等複数の目で確認をし、ミスのない要項づくりにする。
- (2) 新競技会システムの導入
 - ・新競技会システムを導入し競技運営レベルの向上を図る。

- (3) 番組編成会議は、注意事項、競技日程、招集時刻等競技者の競技環境に配慮し競技運営にスムーズに行くよう検討する。
- ・番組編成は公明正大に行い、ミス、訂正の無い完成度の高いプログラム作りを目指す。
 - ・番組編成後「注意事項、競技日程」を速やかにホームページで周知する。
- (4) 円滑な競技運営
- ・基本的なミスやトラブルを未然に防ぐ細心の注意を払う。
 - ・事前の関連部署間連携を含めた十分な確認作業の実施。
 - ・アクシデント発生時の関連部署間の迅速な連携処置の実施。
 - ・競技会全般を把握し、問題発生時の迅速かつ適切な対応をする。
 - ・明確な判定、正確なリザルトの作成。
 - ・ビデオ判定の活用
- (5) その他
- ・主催者との事前確認等連携を強化し、円滑な競技会運営を目指す。
 - ・各競技会の反省点、改善点の集約をし、次回に生かせるよう委員会を定期的に開催する。
 - ・各部署の反省を当該部署にとどまらず全体的にとらえ、各部署の連携、補助しながら改善策を追求する。
 - ・競技者／審判員の事故防止・安全確保に万全を期す。
 - ・一年間を通じ、随時、ランキング表のより正確な作成に取り組む。
 - ・いろいろな分野で無駄をなくす努力をする。諸費用の節約に努める。

○**競技運営委員会の業務（仕事内容）の精選と協働を推進。**

- ・競技運営委員会新体制内で役割分担を明確にし、委員会内の協働を図り、委員会メンバーのレベル向上を目指す。
- ・県陸協ホームページで競技者にとって競技運営面で必要事項を、迅速にUPで出来るよう取組む。

<強化・普及委員会>

◇強化部

- 大会目標

① 第 76 回国民体育大会（三重県伊勢市）	天皇杯	3 位以内
② 第 36 回東日本女子駅伝競走大会		3 位以内
③ 第 40 回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会		6 位以内
④ 第 27 回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会		6 位以内
- 強化目標
 - ・2024 年パリオリンピック候補選手の育成
 - ・国際大会（日本代表選手）出場する選手の育成・支援
 - ・国体候補選手・駅伝候補選手・強化指定選手の競技力向上
 - ・ジュニア選手の強化（中体連・高体連）
- 強化対策
 - 国体選手の強化
 - ・練習会と合宿の強化
 - ・候補選手の早期決定と顧問・監督との情報交換・連携
 - ・ふるさと選手の出場要請・調整
 - ・成年候補選手との合同練習会実施・情報交換
 - ・少年 B 種目候補選手の早期強化
 - 駅伝選手の強化
 - ・合同練習会の実施
 - ・候補選手と顧問等との情報交換・連携
 - ・中体連・高体連との連携・支援 → 都道府県予選会（中・高同一日）
 - ・ふるさと選手（実業団選手）出場要請・調整
 - ジュニア選手の強化
 - ・中体連・高体連の普及・強化事業・支援
 - ・中体連・高体連との練習会・合宿・支援
 - ・中体連・高体連との情報交換・連携

- 4 ジュニア選手の普及・育成対策
 - ・クラブチーム・中体連・高体連との情報交換・連携
 - ・ジュニア選手の研修会・練習会の実施
 - ・普及部事業への協力
- 5 指導者育成対策
 - ・公認コーチ資格取得の広報活動・支援
 - ・コーチ研修会参加への広報活動・支援
 - ・練習会や合宿に若手指導者の招請・育成
 - ・現役大学生の招請・育成
- 6 安全対策
 - ・アンチドーピング意識の高揚
 - ・スポーツトレーナーの活用 → 国体・駅伝
 - ・熱中症の基本的知識理解の研修会実施

◇普及部

【普及活動の目的】

1. 小学生でスポーツ活動や「かけっこ」の好きな子どもを発掘し、生涯に渡り、陸上競技を愛好者する者の増加・育成を図る。
2. 優れた資質を持つ児童を発掘し、中学校・高等学校と連携し将来の成長を見据えた長期的な育成を図る。
3. 指導者の育成を図る。

【普及部活動方針】

1. 普及部の組織と体制
 - ・普及部内の役割分担の定着と各班（事業班・指導育成班・広報記録班）の充実を引き続き図る。
2. 普及活動
 - ・小学生のクラブ団体が少ない郡市に対して、クラブづくりの啓蒙を引き続き実施して行く。
3. 指導者育成に関すること
 - (1) 小学生陸上競技指導者の育成：JAAF 公認ジュニアコーチ育成講習会受講の奨励。
 - (2) 小学生陸上競技指導者の確保：高校・大学の陸上競技部卒業生や教職関係志願者への啓蒙。

<財務委員会>

基本方針

- ① 全ての事業に関わる会計業務に対し、透明性と公明正大さを追求する。
- ② 各事業が適切な項目で、適切な支出が行われているか確認に努める。
- ③ 各事業の会計担当者と、定期的に会計処理に関する情報の共有化を図る。
- ④ 「会計のしおり」の修正作業。

<競技場管理委員会>

1. スムーズな競技会準備と競技運営
 - ・4月の県記録会から大会開催競技場の施設・用器具の点検による大会当日の施設確認とタイムテーブル、進行状況に合わせた用器具の配置・撤収を行なう。
 - ・大会ごとの配置計画表、用器具係手引書による仕事内容の周知徹底を図る。
2. 積極的な研修とルールへの熟知
 - ・審判講習会、研修会への積極的な参加を呼びかけ、ルールブック・ハンドブックの熟読等知識、技術の習得を目指す。
 - ・競技会開催に合わせ、施設の整備、維持、用器具の管理状況等、競技場施設の情報共有を図る。
また、競技場管理に係る規則改正があり、研修会を要する場合は必要に合わせ開催する。
3. 県内各競技場の施設、用器具の管理徹底
 - ・各地区の担当者が担当地区に於ける競技場施設、用器具の点検を行い、修理箇所及び不足数を確認、施設管理担当への整備の依頼を徹底する。

◎ 2020 年度（令和 2 年度） 日本陸連・関東陸協栄章

○ 2020 年度 中学優秀指導者章

門口 知弘（川崎市教育委員会 指導主事）

< 主な育成選手 >

東橘中学校 2015 全日本中学校陸上競技選手権大会 4 × 100mR 2 位 43 秒 16

○ 2020 年度 高校優秀指導者章

金澤 健敏（県立瀬谷高等学校 県高体連専門部委員長）

< 主な育成選手 >

中村 政道 2000 関東高校選抜新人大会 110mH 2 位 14 秒 98

○ 2020 年度 中学優秀選手章

税田 ジェニファー璃美（横須賀市立大津中学校）

全国中学校陸上競技選手権大会 2020 200m 2 位 24 秒 71

○ 2020 年度 高校優秀選手章

石川 優（相洋高等学校）

全国高等学校陸上競技大会 2020 100m 優勝 11 秒 56（神奈川県高校記録）

200m 優勝 23 秒 82

2020 年日本陸上競技選手権大会 100m 3 位 11 秒 66

○ 2021 年度 関東陸上競技協会感謝状

滝 威 神奈川陸上競技協会 競技運営委員会情報部員 情報処理員副主任

朝日山 一男 神奈川陸上競技協会 医務員主任 国体担当トレーナー

服部 修 神奈川陸上競技協会 決勝審判員・周回記録員主任

〜トピックス〜

◎ 神奈川陸上競技協会に日本陸連より感謝状

1970 年からスタートしたジュニアオリンピックは、2020 年第 51 回大会で幕を閉じました。神奈川陸上競技協会が 1999 年から 22 年間にわたりジュニアオリンピックを主管した功績に対し 3 月 18 日の本協会理事会で日本陸連風間事務局長から「日本陸連感謝状」が授与されました。



◎ 郡市陸協だより（第 12 回：厚木市陸上競技協会）

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、当市陸協でも総会などの会議が書面での対応となり、また計画していた競技会もことごとく中止又は縮小して開催するなどの対応を余儀なくされました。

今年度は、感染症の予防に十分な注意を払いつつ各種競技会を開催する予定としており、今月は 2 年ぶりとなる厚木市陸上競技選手権大会を開催し、その後は、記録会や陸上教室、マラソン、駅伝大会等を順次開催してまいります。

近年は、競技運営を担う審判員の確保が難しく、近隣陸協からの審判応援なくしては各種競技会の運営が厳しい状況となっており、審判員の育成や広域的な連携・協力が喫緊の課題と感じています。

さて、いよいよ大会史上初の延期となった「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。陸上関係者はもとより日本代表選手の活躍を大いに期待するとともに、これを契機に明るい日常が戻ることを切に祈念いたします。
(厚木市陸上競技協会 事務局 葉山 神一)

※次回の「郡市陸協だより」は相模原市陸上競技協会にお願いします。

○訃報 神奈川陸上競技協会 常任理事、強化普及委員長 加藤 智明氏は病氣療養中のところ、12 月 7 日にご逝去されました。謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。